

## 糸島新聞が毎夏取り上げる「カメ子」 - 地域と共に歩むニホンイシガメの物語

米谷季子

819-1119 福岡県糸島市前原東1丁目8-17 株式会社 糸島新聞社

"Kameko" featured every summer in Itoshima Newspaper.

- The story of the Japanese pond turtle living in harmony with the local community.

By Tokiko YONETANI

*Itoshima Newspaper, 1-8-17, Maebarahigashi, Itoshima, Fukuoka 819-1119, Japan.*

福岡県の最西部に位置する糸島市。糸島地域を取材対象とする地方紙「糸島新聞」で、毎年夏になると一匹のカメが紙面を飾る。通称「カメ子」。糸島市志摩小金丸の庄島安子さん宅に毎年姿を現している野生のニホンイシガメだ。

その出会いは2010年にさかのぼる。ある日の夕方、裏口で物音がしたため庄島さんが網戸越しにのぞくと、大きさ20センチほどのカメがじっとこちらを見つめていた。「ご飯でも食べに来たの？入っておいで」と戸を開けて声を掛けると、言葉が分かったかのように5~10センチの段差を乗り越え、勝手口の土間までやって来た(図1)。

身近にあった食材を置くと食べたかったので、庄島さんも驚いたという。当初は何の気なしに「カメ吉」と呼んでいたが、九州大学伊都キャンパス周辺で活動する元岡「市民の手による生物調査」団体から、甲羅の形や大きさなどからメスと指摘され、以後は「カメ子」と呼ぶようになった。

カメ子は庄島家を訪れて餌を食べることを習慣とし、2025年で16年目を迎えた。出現時期は年によって異なるが、毎年6月から9月の間に姿を見せる。頻度はまちまちで、毎日のように現れることもあれば、2~3日おきのこともある。訪れる時間帯は主に朝か夕方、大雨の日は姿を見

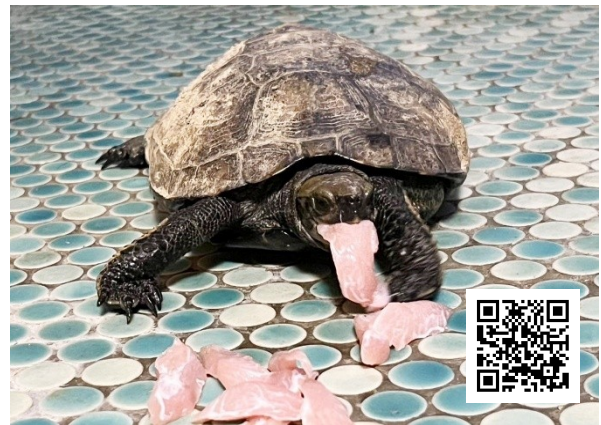


図1. 毎年6月から9月の間に庄島家に現れ、餌を食うニホンイシガメ(メス)の「カメ子」。写真右下のQRコードにて、2025年「カメ子」が庄島家に現れる動画を糸島新聞公式YouTubeチャンネルにて公開中です。

せないことが多いという。

当初は庄島家の横を流れる小川へ帰る姿が確認されていたことから、上流に巣があるのではないかと考えられていた。しかし近年では、家の渡り廊下の下にある暗く湿った場所から姿を現すようになっている。2021年には仲間を1匹伴って現れたこともあった(図2)。

庄島さんは夕食の残りの魚や肉、キャットフードなどを与えていて、カメ子の食事時間は15~30分ほど。今では庄島さんの手から餌を食べるまでに信頼関係が築かれている(図3)。庄島さんは



図2. 「カメ子」とともに、庄島家に現れた2匹のニホンイシガメたち (2021年). 写真左上が毎年カメたちが屋内に入ってくる土間.

「(毎年現れているのは)同じ個体だと思う. 動作がけそけそしとらん(落ち着いている)もんね」と断言する. さらに「いつも夏になるとカメ子が帰ってくるのが楽しみ. 同居する娘と『今年も帰って来たね, お帰り』といって出迎えている」とすっかり家族のような存在になっている.

庄島家には「ひな」という名の飼い猫もあり, カメ子の食事を少し離れた場所から静かに見守るという仲良しぶり. 自然豊かな地域ゆえ, イノシシやアナグマなどの野生動物も姿を現すこと



図3. 庄島さんの手から餌を食べるまでになった「カメ子」.

があり, 家族は「カメ子が無事でありますように」と毎年願っている.

カメ子の存在は, 地域の人々にとっても特別だ. 糸島新聞には毎年「今年もカメ子は元気ですか」という問い合わせが寄せられ, 地元で愛される存在となっている. 人の暮らしに寄り添うニホンイシガメの記録は, 観察資料としても貴重であり, 同時に糸島の温かな風土を象徴する物語でもある. これからも庄島家とカメ子の交流を見守っていききたい.